

秋の一泊研修会 2025. 11. 16～17

早期に2000人を実現し、 未来の展望を切り開く3000人



コミュニティユニオン東京は、コロナ禍を経て、結成16年目にあたる2025年も個人加盟・ローカルユニオンの優位性を発揮しつつ、今後2000人から3000人の組織へと新たな峰を展望し、CU東京の未来を拓くための団結を強め、支部の活動強化と職場での組織・分会づくり、活動の学習・討論・交流・懇親を目的とする一泊での研修会(活動者会議)を11月16日(日)～11月17日(月)埼玉県秩父において開催しました。



全労連・新宿一般の個人加盟労組の立ち上げに関わった経験を持つ屋代眞さんに講師をお願いしました。

講演は「個人加盟労組・ローカルユニオンの未来について」です。

未来を考えるためには日本の労働者運動の歴史を振り返り、総括や反省を行うことが重要だ。日本の労働組合が主に企業別・企業内労働組合として機能していることと、これらの組合が主に正規雇用の労働者で構成されていて、非正規雇用や有期雇用などの異なる雇用形態の労働者を組合に加入させることに課題がある。個人加盟労組やローカルユニオンがなぜ現代の日本社会や労働組合運動において必要なのか。特に、終身雇用を前提とした従来の組合組織では、雇用年限が限られている非正規労働者をどう組織するかという問題がある。

労働組合が拡大強化されていくことは、社会変革の力が大きくなることであり、社会の仕組

みを変えていくことにもつなげていくことができ、未組織労働者の組織化は、労働組合の社会的影響力を拡大していくうえで重要であり、同時にそのことが社会を変革していく課題とも結合していくとなれば、当然今日の労働組合運動の中で最重要の課題となり、もっとも高い位置づけがはからなければならないのではないか。

今日の労働組合運動を再構築していくには、全国・全産業で様々なスタイルでの再構築にむけた挑戦をしていくべき時です。今日、だれもが労働組合運動を再構築・強化していくうえで、悩んでいると思います。しかし、悩んでいただけでは発展はないわけで、もがき苦しみなながらも活路を見出していかなければならないと思います。何か事をおこさなければ何にもはじまらないということだ。と話されました。

支部報告と分散会

講演の後、支部からの経験報告を、こうとう、あだち、ちよだ、港、三多摩が行いました。

その後、6つの分散会に分かれて、講演、支部報告の感想を出し合い、労働相談からの加入の組合員の定着、日常の活動の「居場所」づくりや地域の労働運動とのかかわり等を中心に、話し合いました。

二日目は

二日目には、各分散会の報告をしました。

最後に、高畠副委員長は2日間の会議を振り返り、今回の会議には通常と異なる2つの特

徴があった。1つ目は基調報告がなく、その時間が参加者の議論に充てられたこと、2つ目は討論の内容が組織づくりに重点が置かれていたことです。屋代さんの講演が最初に行われたことも特徴的でした。

仲間を作りながら CU東京を大きくしていこう

現在の課題として、組合員が加入してもすぐに辞めてしまう問題が分散会で議論されたことが報告され、労働組合とは何かをきちんと教育し、単なる「相談解決屋」ではなく労働組合の活動家としての役割を明確にする。現在の労働問題は企業の外で起きているため、企業内のことだけを扱う組合では解決できない、そのため、地域に根ざした個人加盟労働組合をさらに拡大し、全地域に広めていくことが重要だ。また、若い人材の育成と参加、若い人が入ってきたら大事にして一緒に勉強していくことの必要性、仲間を作りながらCU東京を大きくしていこうと締めくくりました。

CU品川第16回定期総会開催 総会が集団労働相談所になってしまった

小雨降る中、10月26日（日）11時より品川労協会議室において第16回総会を開催し、当日は17名が出席、29名の委任状で総会は成立しました。池野委員長挨拶の後、本部岩田事務局次長より、今日の情勢とCU東京の役割について挨拶、日本共産党の野館品川区議より、品川区政の現状を含め挨拶を戴きました。

佐藤書記長から、経過、会計報告、方針、予算案が一括報告・提案され、討論の後、総会議案は採択されました。その後、昼食交流会を行い、新鮮なお寿司を食べながら、組合員の各自の状況や相談事が出され、「レクは鉄道博物館に行きたい」「勤務している介護





施設が不正受給し閉鎖となり、転職せざるをえない」「時給がやっと上がったが、たったの4円だった」「娘が適応障害で休職中なのに、退職勧告された。どうすればいいのか」など集団労働相談の場になった。

終了後、岩田さんに残ってもらい労働相談を行い、翌日、組合員の娘さんが本部で相談した後、組合に加入し、団体交渉も行い解決に向け頑張っています。

●新役員は以下の通りです

執行委員長	池野 隆
副委員長	高畑 稔
書記長	佐藤 盛雄
執行委員	丹伊田恵寿 船津斌滸
	南 陳栄
会計監査	武田よね子

ベトナムへDD11-2号を訪ねる旅

No. 2

CU東京品川支部書記長 佐藤盛雄



ニンビン駅の女性駅員さんと

3月3日は、ニンビン駅長を表敬訪問し、その後歓迎式典が行われ、ベトナム国鉄労働組合のシン議長から絵画を戴き、訪問団から国労ラベルのお酒7合瓶を贈呈した。訪問団の埼玉大学の安藤教授から、国鉄時代のDD11-2の写真、緒方事務局長から神戸港からベトナムに積み出す時の写真アルバムを贈呈した。シン議長は痛く感激し、将来ニンビン駅前を鉄道公園にしてDD11-2を展示する計画と話された。その後、駅前に展示されているDD11-2を見学し、修復時に運転台の屋根裏から発見されたベニヤ板の国労組合員の檄文も機関車の先頭に飾ってあった。

昼食は市内のレストランでベトナム料理を食べたが、「フォー」がおいしかったが全体的には日本のお寺の薬膳料理を食べている気がした。午後は1954年まで使われ、フランス植民地時代につくられた監獄ホアロー収容所を見学し、ベトナム戦争時には捕虜のアメリカ兵も入っていたそうです。ここには当時使っていた本物のギロチンもあり、最後に処刑された人物紹介もされ、チョットぞっとした。

4日は、ハノイの日越大学を訪問した。大学構内はバイクだらけで、動かすのに係員が常駐しておりチップを払って道路に出してもらっていた。古田学長は10年勤務し、来年は退職するとのこと。懇談は1時間を超し、「学生は1000人を超えた。ベトナム人以外に24人おり、日本人は4人。2014年にベトナム国家大学ハノイ校の7番目の大学として設立された。日本の7校の大学が支援協力してくれている。政府は行政改革を始めた。2040年までに先進国入りを目指している。」と詳しく教えて下さった。「最近、国家のトップが次々変わっているが」との質問には、「汚職追放政策を始めてから、4人の集団指導体制で政治をやっているが、担当の部門で不祥事があったら責任を取る仕組みになっている」と。まともな政治を目指している印象を持った。

多摩稲城分会—三多摩地域本部— 第5回総会開催



10月25日、多摩稲城分会は第5回総会を多摩消費者センター講義室で開催しました。

前回の第4回総会から、コロナ禍での活動自粛時期を挟んで5年がたっていました。

総会冒頭、CU三多摩地方本部の福田副委員長が「多摩稲城分会が5年前に行った、シンポジウムで、障がい者の権利を守る取り組みの先鞭をつけ、朝日生命の障がい者の雇止め撤回の闘いに繋がった。」と激励しました。

前回大会後の活動は主に、毎月の役員会、駅頭宣伝や労働相談にも取り組んできました。その実践の上に、今後、組合員の拡大や、労働相談などに取り組み、朝日生命事件を受けて、「障がい者が働くネットワーク」を地域に作ることを目標にすることを確認しました。

自維連立政権の高市総理の「働かせたい改革」などの攻撃から、労働者の権利を守るためにも労働組合の役割は重要です。地域にCUの存在を知らせ、組合員を増やし、地域から声をあげ、闘っていく方針を確認しました。

総会は最後に新役員を決めて、閉会しました。



こみゅーとニースなど組合員の皆さんに情報をお知らせします。公式アカウントのお友達登録を、お願いいたします。

2025年10月3日から 東京都最低賃金は時給1226円

労働者が健康で文化的な生活を営むために必要な費用が最低生計費です。東京で「ふつう」に暮らすには、月294,578円必要です。時給にして2000円です

だからめざそう最低賃金2000円



この時期、新語流行語大賞が話題になる。ノミネートされた言葉には全く聞いたこともない言葉もある。世間に耳目を広げる良い機会とするか、くだらない流行り廃りを嘆くのか、時代は移り変わることは必然のことだ■CU東京は6年振りで一泊の会議を開いた。顔ぶれを見るとだいふ入れ替わっているし、20代の参加もあり、次世代が育っているのは確かだ■市民運動と比べて労働運動は新陳代謝が遅いのは否めない。急加速急転換では振り落とされる仲間もいることに配慮しつつ、新しい課題に敏感な対応は欠かせない■1995年、財界が提言した『新時代の日本的経営』で派遣労働を増大させた。失われた30年が始まった。CU東京はリーマンショック翌年の2009年6月に結成した。前年末の「年越し派遣村」は結成準備の最中でのこと。非正規・派遣労働に対応する個人加盟地域労組の存在と期待が高まり、先行している組合の背中を追いかけてきた。低賃金日本、2000人のCU実現は時代が求めている。